

# NPO法人ゆうゆう24の挑戦



NPO法人ゆうゆう24  
所長 大原 裕介さん



当別町ノーマライゼーションセンター「によきによき」は、によきによき成長ができ、多くの人が集まり、障がいのある方も高齢者も子育てをする方も関係なく触れ合うことができるようにと名付けました。

これからは、障がいのない児童の学童保育にも取り組みたいと考えています。そこでは、子ども同士が互いの価値観を広げていくことや思いやり、いたわる心を育てていきたいと思っています。

また、高齢者や障がいをもつ子の支援においても、当別町ファミリーサポートのような住民が相互に支え合うシステムを町民のみなさんと協力しながら創っていききたいと考えています。

ゆうゆう24は、2002年に本通商店街の空き店舗を利用して、北海道医療大学の学生を中心としたボランティア活動の拠点としてスタートしました。

当時は、200人だった登録ボランティアも現在では、400人を数えます。2005年にはNPO法人を取得して、江別や新篠津にもサービス範囲を拡大し、年間利用者も延べ5,000人を超えました。

今年4月に、ファミリーサポートセンター、10月に相談支援事業などの委託を町から受け、活動の輪を広げて地域に根ざす福祉に挑戦しています。

## ノーマライゼーションセンター「によきによき」、ななかまど当別町障がい者総合相談支援センター「nanakamado」がスタート

旧北季節保育所（六軒町）にノーマライゼーションセンター「によきによき」を、元のゆうゆう24の建物（弥生）に当別町障がい者総合相談支援センター「nanakamado」（以下ななかまど）を開所しました。この施設は、NPO法人ゆうゆう24が当別町で障がいをもつ方や高齢者の生活を支えあう「共生」の社会づくりを目指して設立し、高齢者・子育てに対するサービスや障がいをもつ子を一時的に預かるレスパイトサービスなどを展開しています。



## 共生の社会を目指して～当別町ノーマライゼーションセンター「によきによき」

場所 六軒町69番地11(旧北季節保育所) 連絡先 ☎/FAX22 - 2886

### 児童デイサービス amaririsu (アマリリス)

障がいをもつ子や人とのコミュニケーションを不得手としている子どもたちが利用しています。身の回りのことや社会で自立生活に必要なことを練習し、学んでいます。

### 障がい者ヘルパーステーション ajisai (あじさい)

身体・精神・知的に障がいのあ  
る方々に対する介護や家事の援  
助をする「居宅介護事業」や移動  
することに制約がある方々の外  
出を支援する「移動支援」を行  
います。

### 当別町ファミリーサポートセンター

まち全体で子育てをしようと  
取り組んでいるファミリーサ  
ポートシステム。

協力会員と利用会員を結びつ  
け、協力会員が一時的にお子  
さんを預かって保育します。

## 寄り添う支援を目指して～当別町障がい者総合相談支援センター「ななかまど」

ななかまどは、障がいのある方  
が住み慣れた地域で安心して暮ら  
すことができるように、障がいの  
種類や年齢を問わず、支援を必要  
としている方やその家族、関係機  
関、地域住民から相談を受け、よ  
り良い生活を送ることができるよ  
うにお手伝いするところです。

### ななかまどが行っているサービス

#### 1.知りたい情報をお知らせします

障がいのある方に関する制度や  
サービスのことでわからないこと、  
知りたいことがありましたら、気  
軽にご相談ください。当別町や近  
隣地域の情報をお知らせします。

#### 2.ケアプラン作成のお手伝い

よりよい生活の継続や将来設計  
のために必要なサービスや制度の  
組み合わせなどを一緒に考え、計  
画(プラン)作りをお手伝いしま  
す。

計画は、相談員が定期的に訪問  
したり、関わる人たちが集まって  
一緒に見直し、必要に応じて変更  
します。

#### 3.地域での支援ネットワークを広げます

障がいのある方やその家族をは  
じめ、行政機関、事業所、教育機  
関、就労機関、地域住民の方など  
と協力しながら支援のネットワ  
ークを広げる活動をします。

「こんなサービスが必要」「こん  
なサービスがあったらいいのに」  
など、皆様のアイデアをななか  
まどまでお知らせください。

❖連絡先 当別町障がい者総合相  
談支援センターななかまど(☎23  
- 1917/FAX23 - 1909)電話は24時間  
対応しています。



当別町障がい者総合相談支援センター長 赤杉 美香さん

私が通っていた小学校には、ク  
ラスに障がいをもつ子がいました。  
同じ教室で授業を受け、一緒に給  
食を食べ、放課後は一緒に遊びま  
した。通常は、障がいをもつ方と  
ふれあう機会が限られ、いざ共に  
活動するとなると、多くの方はど  
う接してよいのか分からなくなっ  
てしまうのではないのでしょうか。

ほんの少しの手助けで障がい  
をもつ方の生活は変わります。  
みなさんに障がいをもつ方を身  
近に感じていただき、ななかまど  
が障がいをもつ方、もたない方が  
出会い、親しむきっかけ作りの場  
にもなっていけばと思います。



## 私たち北海道医療大学学生ボランティアも一緒に活動しています



### 1年生 吉田 啓介さん

最初、どうやって子どもと  
ふれあえばいいか分からな  
かったですが、少しずつ慣れ  
てきました。これからも楽し  
みながら続けて行きます。



### 1年生 森内 亨さん

ここの施設で初めて障がい  
を持つ児童のお世話をするボ  
ランティアをしました。  
とてもためになる経験がで  
きていると感じます。